

連携のポイント

- 得意な授業、苦手な授業での様子
- 休み時間の過ごし方
- クラスの子との関わり
- パニックになる原因
- 家庭での様子

お知らせください

まずはできるところから

医療機関への受診に抵抗を感じていらっしゃる方も少なくありません。診断がついていなくても、学校で少しずつ工夫を取り入れることにより「本人が困ること」を解決することは、子どもや保護者双方にとって大切なことです。

関係機関で情報を共有してサポート体制を築きましょう

関係機関	担当	連絡先

編集/制作
 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業
 「子どもの心の診療に関する診療体制構築、専門的人材育成に関する研究」分組研究
 発達障害を中心とした医療と教育の連携の在り方に関する研究
 主任研究者：奥山真紀子 分担研究者：市川宏伸

教育と医療の
 よりよい連携を
 目指して

子ども達のこと 一緒に 考えましょう



こんな子、 いますか？



- マイペース
- 集団行動が難しい
- コミュニケーションがうまくとれない
- 落ち着がない
- こだわりが強い
- 忘れ物やなくし物が多い
- パニックが激しい



発達障害かもしれません

自閉症スペクトラムとは？

- 自閉症やアスペルガー症候群が含まれます。
- 社会性(対人交流)、コミュニケーション(言葉の理解・表出)、イマジネーション(見通し・こだわり・興味の偏り)の3領域の発達に偏りがあります。
- 感覚や運動面での偏りを併せ持つ場合もあります。
- 個々の特性やスキルに合った支援が必要です。

AD/HD(注意欠如多動性障害)とは？

- 多動衝動性や不注意が年齢に比べて非常に強く、日常生活に支障が生じます。
- 生活の中で工夫がある場合でも過剰になりやすいです。
- 薬を飲むことで症状が軽減する場合もあります。

LD(学習障害)とは？

- 読み・書き・計算のいずれかの領域において困難があります。
- 工夫を取り入れることで、学習しやすくなります。

このパンフレットは診断をつけるためのものではありません。正確な診断は専門医へ相談してください。

学校での 対応・支援

保護者の育て方やつけのせいではありません。本人の意欲や努力が足りないからではありません。支援により学校生活がより過ごしやすいものになります。

見通し

授業の内容やスケジュールを事前に視覚的に提示することで、見通しを持って安心して過ごすことができます。変更や変化も予告をすることで、心の準備ができます。

集中

授業刺激に反応しやすい子は、座を崩したりカードやパーテーションなどで刺激を軽減したりすることで集中しやすくなります。また、プリントの配布や教材を取りに行くなどの役割を作ったり、体を動かすことを保証することもよいです。

気持ちの表現

感情を表す言葉や絵カードに、安心して表出する時間を作るとよいでしょう。感情カードでの補助や図鑑を数値で表すことが有効な子もいます。

音過敏

集団のさむさわみや特定の音などに苦痛を感じます。つらくなくなった車や電車、イヤーマフや耳栓などを使用したりして嫌悪刺激を避けて過ごします。

パニック

パニック時には刺激を避け、落ち着ける場所です。落ち着けたことを褒めながら、原因を一緒に探り、共通することにも解決する方向へと相談します。

カーマダウン

集団場面では、特性のためにつらい思いをして過ごすこともあります。頑張らなくてもいいように、疲れたときやイライラするときに、自らカーマダウンをして休める空間を確保できると安心して過ごすことができます。

対人関係

休み時間は、自分のペースでリラックスタイムを過ごす時間を尊重してあげてください。まずは種のある活動での交流で、自信がもてるようにしよう。

言語理解

具体的に強やかな口調で伝えることが大切です。ポイントの視覚的な提示や絵カードを用いることで、より理解しやすくなります。

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

（研究代表者 奥山眞紀子）

分担総合研究報告書

医療と福祉・司法・警察との連携の在り方に関する研究

分担研究者	田中康雄	北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター
研究協力者	久蔵孝幸	北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター
	川俣智路	北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター
	内田雅志	北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター
	福岡麻紀	北海道医療大学 看護福祉部 臨床福祉学科
	伊藤真理	北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター
	金澤多希子	北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター

研究要旨

初年度には、北海道の教育困難校での医療、行政、教育、福祉、心理による連携の試みとしての実態調査および参与観察より、今後の課題は事例ごとへの対応から、地域連携システムの構築へと取り組むことであることを明らかにし、医療、司法、福祉、行政、心理の専門家による触法・虞犯少年のケースカンファレンスの実施から、多職種による連携においては、個々が閉塞的に困っていることを明らかにした。そのうえで、いつ、どの職種が、なにを目的に連携を行うべきかが不透明で、大きな支障となり、連携の情報整理の必要性を指摘した。

そこで、2年目および3年目において、多職種が使用できる情報を統括した、多職種が使用可能なアセスメントツールの開発を行った。具体的には、イギリスの「児童虐待対応の判定枠組み」がベースとなって開発され、現在は「援助の必要な子どもと親」へと拡大した連携ツールであるCAF（Common Assessment Framework）の内容を吟味して、日本語版の開発に取り組み、CAFをベースとしたニーズアセスメントツール（Needs Assessment Tool：通称NAT）の電子化ツールを作成し、実際の事例検討を重ねながら、一応の完成を見た。

今後は、協力機関とともに、実際に多職種が関わる場面で試行しながら、その使用感を関係者からヒアリングする。機関先は教育困難校・保護観察所等を検討中である。そのヒアリングのデータを集約して広く一般に使えるものとして公表することを目指すことを課題とおいた。

A. 研究目的

本研究では、子どもの心に近づく専門的人材を育成するうえで、連携あるいは学際的システムを構築する必要性を強く感じる「福祉・司法・警察」との連携の在り方を検討し、最終的に多職種が使用可能なアセスメントツールを開発することとした。

B. 研究方法

1) 北海道の教育困難校での医療、行政、教育、福祉、心理による連携の試み

2) 医療、司法、福祉、行政、心理の専門家による触法・虞犯少年のケースカンファレンスと多職種による発達障害学生への就労支援の取り組みによる現状把握と支援試行

3) 包括的アセスメント、連携ツールである CAF の日本語版試作にむけての取り組み

4) CAF をベースとしたニーズアセスメントツール (Needs Assessment Tool : NAT) の作成 (電子化)

(倫理面の配慮)

実際の事例に関しては、匿名性に留意しながら検討を行い、事後速やかに関係書類を削除した。いかなる場合でもデータなどの管理は、研究者が責任をもって厳重に行うことを徹底した。

C. 研究結果

1) 北海道の教育困難校での医療、行政、教育、福祉、心理による連携の試み

教育困難校と呼ばれる高等学校における連携の取り組みを検討した。連携先の教育困難校は、北海道の道東にある人口

2万前後の地方市にある、全校生徒40人の昼間定時制高校である。生徒は、ほぼ全員が小・中学校で不適応(不登校、いじめ、学習不振など)あるいは家庭環境が厳しい(虐待・ネグレクト)生徒がほとんどである。高校に何とか登校しながら、学校生活のやり直しから、就労・進学へ繋げていく試みを、医療、行政(発達障害者支援地域センター)、心理(北大)、労働(ハローワーク)、福祉施設との就労連携など使える資源を最大限活用しているが、実際は、誰が、どこで、なにを支援したらよいかの分担がわからないため、学校中心に個別の対応で終始している。

2) 医療、司法、福祉、行政、心理の専門家による触法・虞犯少年のケースカンファレンスの現状

多職種の専門家による触法・虞犯少年のケースカンファレンスの実施、各施設の状況や連携の状況の検討(H21.02月現在:事例検討4回、学習・意見交換会2回実施)している。さらに保護観察所との連携による少年支援として定期的なケースカンファレンス(H21.02月現在で5回)を行っている。また、多職種による発達障害学生への就労支援の取り組み(H21.02月で7回の連絡協議会議を開催)も並行して実施した。

3) CAF の日本語版試作

CAF は、子どもの発達、親の力量、家族と環境の要因という3つの側面について、検討し、それぞれのニーズとストレスを把握することから、連携支援の着目点を明確にすることができる。我々は、原法と異なり、項目評価に重み付け

を行い、実際の連携の優先順位、主たる連携先などを明確に出来ないかを検討している。

まずCAFを翻訳し、次いでその日本語版で事例分析を試作した。

4) CAFをベースとしたニーズアセスメントツール(Needs Assessment Tool : NAT)の作成

それをベースにして、電子化された連携ツールを作成した。実際にはNAT作成における留意点として、試作し

- ①簡易で使用しやすいツールであること
- ②コンピュータへの入力プログラムを作成し、情報・データ管理を容易にする
- ③項目数を再分類し、入力しやすいように工夫
- ④結果には表示されない、「保留情報」を設けることで、情報の一元管理が可能
- ⑤アセスメント対象者の全体像の把握が可能であること
- ⑥3領域からのアセスメントを行なうよう、すべての項目を確認するよう誘導
- ⑦ニーズのみではなく、ストレngthsについても積極的に着目する
- ⑧アセスメント結果がわかりやすいこと
- ⑨視覚化の検討
- ⑩入力が終了すると、自動的に結果が表示される

以上のことに留意して開発を行った。

その後、実際にNATを使用してのケースカンファレンスと、事後ヒアリングを実施した。

まず、完成したNATベータ版のプログラムの検証と、実際の入力のメリットを確認するために、北海道大学大学院附属子ども発達臨床研究センターにて行われた実際の相談活動の内容を参考に、NAT

の模擬入力を行った。

その結果、

- ①ケースの情報を整理し、有機的に結びつけ理解できる
- ②多職種連携の際に必要な情報の明確化と、その情報の分類が容易にできる
- ③ニーズとストレngthsを的確に把握でき、三領域のどこから対応をしていく必要があるかについて視覚的に把握できる。
- ④ケースの集計などの、ケースの管理作業を容易に行える
- ⑤目的別によるケースの抽出が可能である

こうした機能により、特定の条件のケースを抽出しその傾向について分析することや、特定の条件のケースへの対応について検討することができ、ケース研究をする際に有用であることがあわせて示唆された。

さらにNATを用いた模擬カンファレンスを実施した。

D. 考察

1. 当初の実践研究から連携する際に、役割と目的が統括できるツールがないことから、イギリスの「児童虐待対応の判定枠組み」がベースとなって開発され、現在は「援助の必要な子どもと親」へと拡大した連携ツールであるCAF(Common Assessment Framework)の日本語版の開発の必要性が緊急課題となった。

2. 連携ツールであるCAF(Common Assessment Framework)の日本語版の開発と実施では、国民性や課題の差違から結局日本独自のツールの開発が求められることが判明した。

3. そのため2年間をかけて、包括的アセスメント、連携ツールであるCAFをベースとしたニーズアセスメントツール(Needs Assessment Tool : NAT)の作成とその実施を試みた。

NAT ベータ版による試験運用の結果では、①ケースの情報を整理し、有機的に結びつけ理解できる、②多職種連携の際に必要な情報の明確化と、その情報の分類が容易にできる、③ニーズとストレングスを的確に把握でき、三領域のどこから対応をしていく必要があるかについて視覚的に把握できるという、われわれが当初から目論んでいた利点を明らかにすることができた。さらに、電子版のメリットとして、④ケースの集計などのケースの管理作業を容易に行える、⑤目的別によるケースの抽出が可能であるという簡易データベース化を可能とすることもできた。

しかし、その一方で使用者の専門性や背景によって、NATに求めることは異なってくるのが推測される。したがって今後、異なった専門性や職種の使用者によって、ここで述べた以外の利点や課題もまた新たに見出されることも期待できるだろう。

一方で、NATを用いた模擬カンファレンスでは、実際の事例に関わっているものが事例提供者のみというシチュエーションであったが、実際は多職種のそれぞれに接点がある中でNATが用いられることになる。関係者がそれぞれの情報を持ち寄り、項目を入力していくことが更なる立体的な事例理解の一助となるであろうし、具体的な対処方法を設定し、今後につなげていくことが可能となるだろう。

う。

多職種連携の難しさは、立場により見え方が違うことも大きな要因であると思うが、NAT入力という共同作業を通じて、見え方の違いにより起きてくる関係者の感情をいったん棚上げし、フラットな事実を共有することができる。そのことで、協力体制の基盤を作り上げ、それぞれの担当者の心理的負担感を軽減する作用がある。担当者が一人で対処しているのではないと感じることは、事例を行う上でとても重要な感覚である。リアルタイムで関係者がその感覚を共有することが可能であれば、事例を取り巻く関係者の雰囲気は変化していく。

また、模擬カンファレンスの準備段階として、自経例を4事例入力したが、入力することで、それぞれの事例の輪郭がくつきりと浮かび上がるような感覚があった。つまり、NATに入力するということが自体が1つの大きな客観化と自浄作用をもたらすのではないだろうか。

担当者が行き詰りを感じ、多職種との連携を必要としている事例では、その事例の困っていることや大変なことに目が行きがちであり、そのために“何とかしなくては”との焦りの気持を抱えがちである。焦りの気持は、視野の狭まりをもたらし、更なる行き詰り感を強化するという悪循環にはまってしまうことがある。その際に、NATを入力することは、1つの大きな客観化の作用をもたらすことが可能になる。つまりは、NATの入力作業との対話が、1つの自己カウンセリングの要素を持っていると言える。

子どもの成長・発達が大きく阻害され

る要因が含まれる事例に関しては、その抱えている現実の重さゆえに、容易に関係者同士の齟齬や対立をもたらすことは、現場では多々経験されていることである。そのような、非常にセンシティブな事例に対して、NAT は、その子どもの成長・発達を支援するという前向きな目的にエネルギーを注ぐことが可能となる、時代的ニーズに即したツールであると考えられる。

E. 結論

連携あるいは学際的システムを構築する必要性を強く感じる「福祉・司法・警察」との連携の在り方について検討した結果、イギリスの「児童虐待対応の判定枠組み」がベースとなって開発され、現在は「援助の必要な子どもと親」へと拡大した連携ツールである CAF (Common Assessment Framework) の内容を吟味して、日本語版の開発に取り組んだ。

CAF をベースとしたニーズアセスメントツール(Needs Assessment Tool : 通称 NAT)の電子化ツールの作成を目指し、実際の事例検討を重ねながら、3年目に NAT 電子版の完成版が完成した。

本連携ツールは、これまでなかなか連携の舞台に登場しにくかった触法事例、学校との連携、虐待ケースでの福祉との連携、などに有効ではないかと思われる。

今後の課題としては、協力機関とともに、実際に多職種が関わる場面で試行しながら、その使用感を関係者からヒアリングを重ねていきたい。さらにそのヒアリングのデータを集約して広く一般に使えるものとして事例集のような形で公表することを目指したい。

また、現在は stand-alone 型だが将来的には network に接続して運用することも視野に入れる。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

1. 論文発表

2008 年

- ・田中康雄：軽度発達障害 繋がりがあって生きる，金剛出版
- ・田中康雄：第9章 発達障害支援から見る現代社会の課題，発達障害の基本理解所収，金子書房，174- 192

2009 年

- ・田中康雄：学校・地域社会と心の健康，子どもの心の診療入門 所収，中山書店，75-81
- ・田中康雄：ADHD と破壊的行動障害，子どもの攻撃性と破壊的行動障害所収，中山書店，65-81
- ・田中康雄：小児・青年期の行動異常，よくわかる精神科薬ハンドブック所収，照林社，183- 189
- ・川俣智路：コミュニティ心理学・犯罪心理学，社会福祉学習双書心理学 所収，全国社会福祉協議会，202-203
- ・福間麻紀：地域連携 多職種連携，社会福祉学習双書心理学 所収，全国社会福祉協議会，203- 207
- ・田中康雄：ADHD ってなに？LD ってなに？，こころの科学，12-16
- ・田中康雄：紡いでゆく連携 ネットワーキングからノットワーキングへ，こころの科学，55-58

2010年

- ・田中康雄：「社会的養護」に携わる職員の使命；月刊福祉93（8）p36-39, 全国社会福祉協議会
- ・田中康雄：発達障害が示す特性を日常生活で活用すること；子どもと福祉3（1）p92-101, 明石書店
- ・田中康雄：ADHDの地域におけるケアシステム；精神科治療学25（7）p955-960, 星和書店
- ・田中康雄：第4章 発達障害のある方と養育者に対する包括的支援ニーズの実態と課題，発達障害者支援の現状と未来図 所収, p83-111, 中央法規出版

2. 学会発表

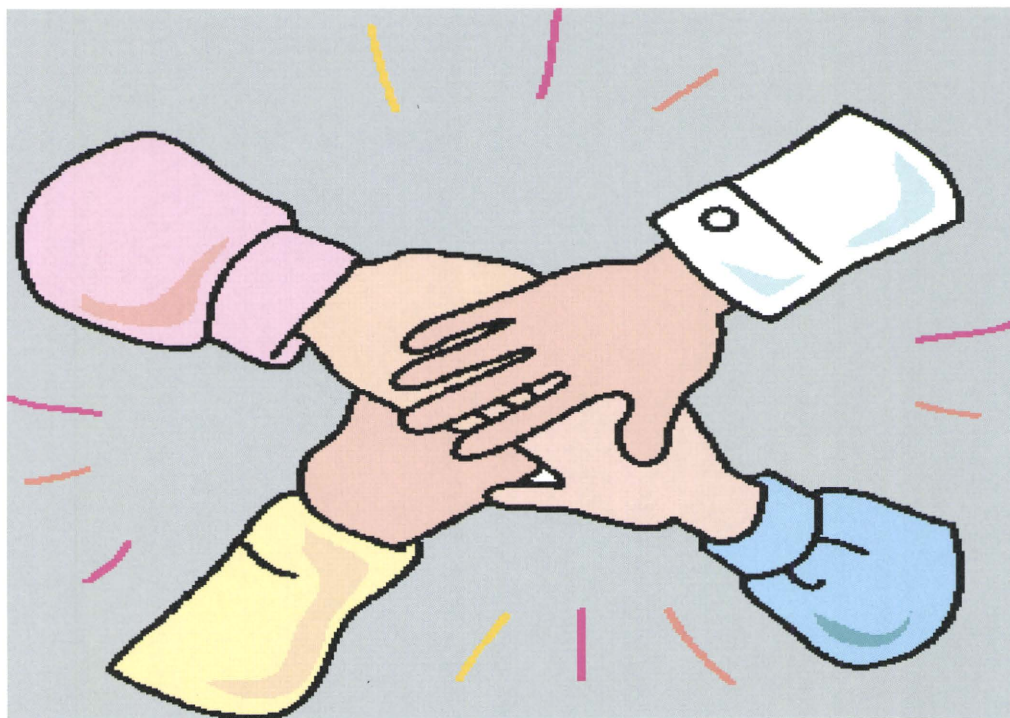
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

ニーズアセスメントツール (Needs Assessment Tool：通称 NAT)の電子化ツール・ソフトを出願予定

NAT (Needs Assessment Tool) ハンドブック

—多職種連携のためのアセスメント・プログラム「NAT」の概要と使用法—



北海道大学大学院教育学研究院
附属子ども発達臨床研究センター

はじめに

このNATプログラムは、平成20～22年度の厚生労働科学研究 子ども家庭総合研究事業、子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門の人材育成に関する研究（主任研究者：奥山真紀子）の分担研究として行った「医療と福祉・司法・警察との連携の在り方に関する研究」で開発されたものです。

子どもが何かしらの事情で、医療、福祉の枠組みを超え、司法、警察の力を借りる必要に直面することがあります。身近な例では、いじめの被害に遭ったときや、時に万引きや傷害を引き起こしたさいに、時に子ども側にあるさまざまな要因を無視してその言動を判断することはできません。その場合、要因を多面的に分析して、これまでの経過を見つめ直すだけでなく、今後の子どもの育ちを最大限保証したうえでの支援を検討する必要があります。

このときに求められるのが「多職種連携」という関わりですが、共通した理解のうえで齟齬を生じさせることなく円満かつ迅速に、そしてなによりも正確に支援体制を組むためには、あまりにも徒手空拳な事態であることを、この研究を行うなかで痛感しました。

すなわち、各専門職の役割と仕事内容や目的のわかりにくさ、多職種がこれまで構築してきた哲学・理念・価値観・判断・評価の手順や方法の違い、役割のあいまいさ、専門性の理解されにくさ、情報共有の障壁といった事柄が課題として浮上してきました。

われわれは、3年間の研究期間で、まず支援体制を組むためのツールとして、多職種が使用できる情報を統括できるなにかしらのツールを構築することを目指しました。特に多職種が使用可能なアセスメント・ツールを開発することを研究目標に設定しました。

そのなかで浮上してきたのが、英国の青少年施策で使用されている Common Assessment Framework でした。

われわれは、これを翻訳し、実際に試行してみました。すると、専門職種や実務状況などに国家的相違があることが明らかになり、このツールをわが国に順応するような修正が必要であり、さらに、より簡便に使用できるようコンピュータ管理が可能となるようなペーパーレスとクラウド上でのネットワーク仕様を目指すことにしました。

ここに多くの関係者のご協力により、一定の水準をもって完成したアセスメント・ツール（これをわれわれは英国のそれと区別する意味で、Needs Assessment Tool: NAT）と名付けました。

今後、実際に多くの関係現場で使用していただきながら、機会があれば、より精緻化していくことを目指していきたいと思えます。

最後に、こうした地道な開発研究に寛大なご理解を示し続け応援してくださりました、主任研究者である奥山真紀子先生に深く感謝したいと思います。

目次

NAT (Needs Assessment Tool) ハンドブック

—多職種連携のためのアセスメント・プログラム「NAT」の概要と使用法—

はじめに 1

NAT の基本概念 5

1. NAT とは 6

2. NAT の対象者 7

3. NAT の実施者 7

4. NAT を実施する場面 7

NAT の使用方法 9

5. NAT の構成と入力手順 10

6. NAT プログラムのインストールと使用方法 12

NAT を使用してみる 35

7-1. NAT の実際の入力例1 36

7-2. NAT の実際の入力例2 46

8. 資料 56

おわりに 63



NAT の基本概念



1. NAT とは

NAT (Needs Assessment Tool) は、多職種連携に必要な、連携する「目的」、連携に必要な「情報」、連携して行動するための「役割」を統括し共有するためのアセスメント・ツールです。

NAT は英国の青少年施策で用いられている共通アセスメント枠組み (Common Assessment Framework : 以下「CAF」) を参考にして、作成したものです。

CAF とは、英国で実施されている、すべての子どもに総合的なサービスを提供する手段としての、統一的评价と計画の枠組みです。この枠組みは、子どもの「追加的なニーズ」の早期発見を促し、ニーズを満たすために、総合的なサービスを提供することを目指しています。つまり、問題が深刻化する前に、ニーズを早期に発見する方法の必要性から開発された枠組みです。対象は出生前の胎児から 18 歳までの、「追加的なニーズ」「複合的なニーズ」を抱えた子どもです。この枠組みは「子どもの発達」「親の力量」「家族と環境の要因」の三領域から構成されており、領域について、ニーズ¹とストレンクス²に着目して評価をすることになっています。

CAF という統一的な枠組みを使用する利点には、次のことがあげられています。①危機的状況にいたる前に、関わる専門職が子どものニーズを特定するための統括的なツール、②関わるすべての専門職がニーズについて話し合い、取り組むための共通言語の提供、③多職種間での情報共有を容易にするための共通した構造の提供、④重要なニーズを見逃さない事を保証しつつ、子どもが受けなければならない評価の規模を縮小し、情報の収集の反復・重複を減らす、⑤他機関を関与させるための要求を容易にし、 unnecessary 紹介を減らし、特別なサービスが最も必要とされるところに提供されるのを可能にする根拠の提供。

NAT は上記のような CAF の目的を踏まえつつ、わが国において、子どもに関わるさまざまな職種が、それぞれの専門分野に関わらず、共通して使用できる、より簡便なアセスメント・ツールを目指しています。

¹ CAFの実務者向けのマニュアルには「追加的なニーズ」の例として、破壊的行動や反社会的行動、公然たる親との対立または親の支援不足やけじめのなさ、犯罪への関与または犯罪行為の危険、不登校または学校からの排除、いじめの経験、特別な教育的ニーズ、心身障害、16歳以降における教育、訓練、雇用からの疎外、栄養不良、不健康、薬物乱用、不安や鬱(うつ)、住宅問題、妊娠と親になること、が挙げられています。また「複合的なニーズ」に関しては、公的機関による保護対象となる子どもたち、保護観察を受ける子どもたち、公的保護から離れる者たち、公的機関による保護が適用される子どもたち、深刻かつ複雑な、特別な教育的ニーズを持つ子どもたち、複合的な心身障害や健康ニーズを持つ子どもたち、重篤な精神的健康問題を持つと診断された子どもたち、青少年司法サービス(地域社会及び刑務所内)を必要とする青少年犯罪者たち、が挙げられています(日本語訳は「英国の青少年育成施策の推進体制等に関する調査報告書 2009 内閣府」を参照)。

² ストレンクス(長所)は、子どもやその家族、環境などの強みや、活用可能な資源を指しています。NATはニーズだけに着目するのではなく、このストレンクス(長所)もきちんと把握し、バランスの良いアセスメントを行えることを重要視しています。CAFの実務者向けのマニュアルにも、評価についての留意点として、「ニーズだけでなく、家族の長所にも重点を置く。」と書かれています(日本語訳は「英国の青少年育成施策の推進体制等に関する調査報告書 2009 内閣府」を参照)。

2. NATの対象者

- ◆ 何らかの追加的な支援ニーズをもつ、あるいは支援の必要性が疑われる子ども全般（概ね、乳幼児から青年期までを想定していますが、厳密な年齢の制限は設けていません）
- ◆ NATの使用を必要としない場合
 - 一般的なサービス（保育・教育等）により、ニーズが満たされている場合
 - 虐待や医学的治療の必要のある場合など、緊急的な対応が必要な場合

3. NATの実施者

- ◆ 子どもやその家族に対し、さまざまなサービスを提供する、各種機関の担当者
- ◆ 関連サービス機関としては主に次の機関があげられる
公的機関、教育機関、医療機関、各種相談機関、保育サービス実施機関、社会福祉機関等

4. NATを実施する場面

- ◆ 子どもに何かしらの支援ニーズが疑われる場合
- ◆ ニーズが不明確である場合
- ◆ 担当者あるいは所属する機関において、対応可能な範囲であるかを確認したい場合
- ◆ 多職種・多機関の連携が必要な場合、あるいは必要かどうかを判断したい場合
- ◆ 多職種による支援計画を作成するとき（カンファレンスや事例検討など）
- ◆ 担当者が自らのアセスメントや支援計画を見直したいとき

<参考文献>

・英国子ども省ホームページ

「Every Child Matters(どの子どもも大切)」サイト

<http://www.dcsf.gov.uk/everychildmatters/>

「共通アセスメント枠組み(CAF)の説明等」

<http://www.dcsf.gov.uk/everychildmatters/resources-and-practice/IG00063/>

・「英国の青少年育成施策の推進体制等に関する調査報告書」(平成21年3月内閣府政策統括官)

<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ukyouth/indexpdf.html>

NAT の使用方法



5. NAT の構成と入力手順

(1) 基本情報の確認

- ◆ 子どもについては主に次の内容を確認します。
氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、障害の有無（有る場合は詳細）、診断名、サービス提供機関名と内容
- ◆ 保護者については主に次の内容を確認します。
氏名、性別、生年月日（あるいは年齢）、住所、電話番号、現在の家族状況
- ◆ 相談理由（子どもあるいは親の特別なニーズ）

(2) 評価項目の概要と評価時の留意事項

- ◆ 「子どもの発達」「親（養育者）の力量」「家庭環境・地域環境」の三領域から構成されており、それぞれの領域について検討します。
 - 子どもの発達：子どもがどの程度発達しているかを評価します。
 - 親の力量：親が子どもの発達を支援している程度と、子どものニーズへの対処がなされているかを評価します。
 - 家庭環境・地域環境：子どもの発達や親の養育能力に影響を与える家庭環境と地域環境を評価します。
- ◆ 三領域は各領域内で4つの中項目に分類され、さらに5つの小項目を設定しています。（資料1参照）。
この小項目に沿って、評価していきます。

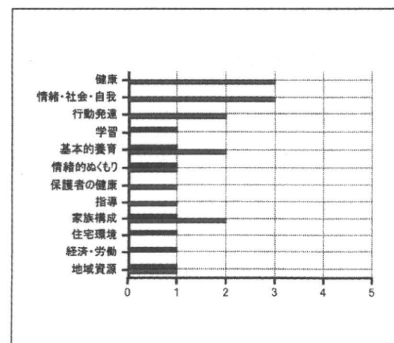
【評価時の留意事項】

- すべての項目について、該当するかどうかを検討し、関係のある項目についてのみ記述します。すべての項目について記述する必要はありません。
- ニーズだけではなく、ストレングスについても評価します。
- 担当者の意見だけではなく、可能な限り、「事実」に基づいた内容を記述します（事実…子どもや親の実際の言動など）。
- 他の関係者から収集した情報も記述します。その際には、情報源についても明記します。

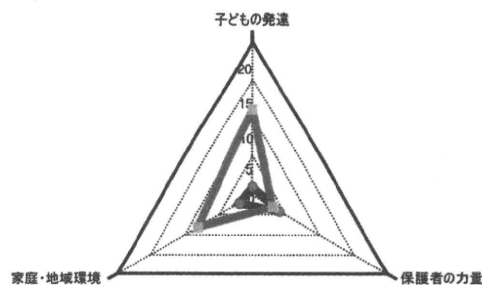
(3) アセスメント結果の表示

- ◆ 評価項目への記述に基づき、三領域別のニーズとストレングスの記述内容とグラフが表示されます。
 - この棒グラフは5つの小項目がそれぞれ何個ずつ記載されているかを示すグラフになります。青はストレングス、赤はニーズを示します。項目はそれぞれ三領域を構成する4つの項目が並んでおり、「健康」から「学習」までが「子どもの発達」に関する項目、「基本的養育」から「指導」までが「親（養育者）の力量」に関する項目、「家族構成」から「地域資源」までが「家庭環境・地域環境」に関する項目になります（資料1参照）。グラフは5つの小項目のうち何項目が記録の中で言及されているかを示します。例えば、一番上の「健康」の項目

では、小項目で3項目がニーズとして言及されている、ということになります（1つの小項目で2個以上の記録が残されても、ここでは1項目に言及したと数えています）。このグラフから、それぞれの中項目のニーズとストレングスの言及状況を確認することができ、バランスの良い支援計画を考えることができます。



- このレーダーチャートは、三領域それぞれへの記録の状況について示したものです。青はストレングス、赤はニーズを示します。値が大きくなればなるほど、その領域の言及された項目が多いことを示しています（1つの小項目で2個以上の記録が残されても、ここでは1項目に言及したと数えています）。このレーダーチャートにより、各領域のニーズとストレングスのバランスを把握することができ、支援計画の際に重点的に取り組むべき課題を特定することがよりわかりやすくなります。



(4) 結論・支援計画の記入

- ◆ アセスメント結果に基づき、アセスメントの総合的な結論を記入します。
- ◆ 結論に基づき、支援目標をたてて、記入します。

(5) 行動計画と時間管理の決定

- ◆ 「結論・支援計画」に基づき、「誰が」「いつまでに」「何をするか」を記入します。その際、優先順位の高いものから順に記載します。
- ◆ 行動計画に対するモニタリングの実施日を決定し記入します。モニタリングの参加者についても記入します。

(6) モニタリングの実施

- ◆ 行動計画が実行された場合には、「実行済」にチェックをします。実行されなかった場合には、「未実行」をチェックし、理由を記入します。

6. NATプログラムのインストールと使用方法

6-1. NATシステムのインストールとアンインストール方法

1) インストール方法

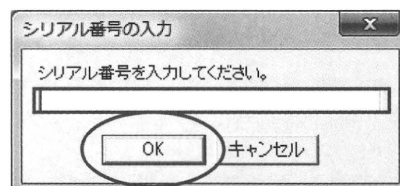
- ① CD-ROM をパソコンに挿入します。
- ② Windows の「コンピュータ」をクリックして、CD-ROM の内容を確認します。
- ③ Setup.EXE をダブルクリックすると、セットアップが開始します。(Windows Vista, Windows 7 で、警告画面が表示された場合には「続行」をクリックして下さい。)



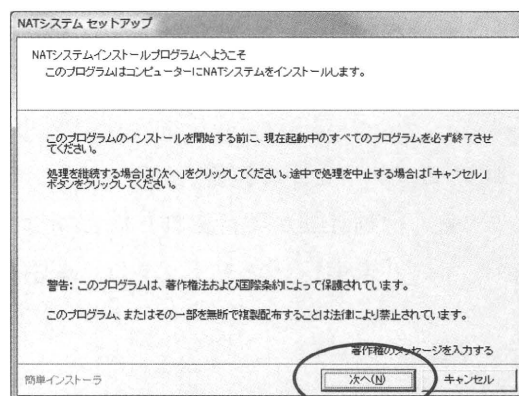
- ④ セットアップのための準備作業が自動的に開始されますので、そのままお待ち下さい。1分程度で終了して画面が切り替わります。



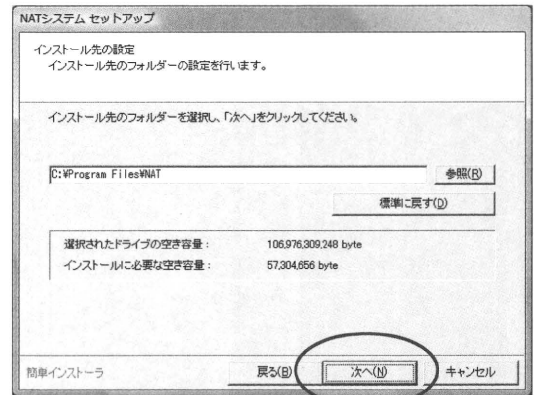
- ⑤ シリアル番号の入力画面が表示されますので、あらかじめ入手したシリアル番号を入力してOK ボタンをクリックします。なおシリアル番号の入手方法については、60 ページをご覧ください。



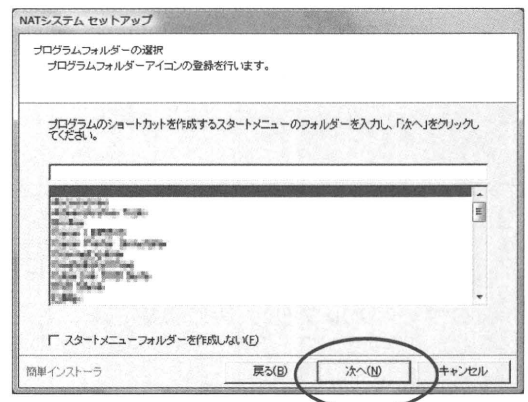
- ⑥ インストールに関する注意事項が表示されますので「次へ」をクリックします。



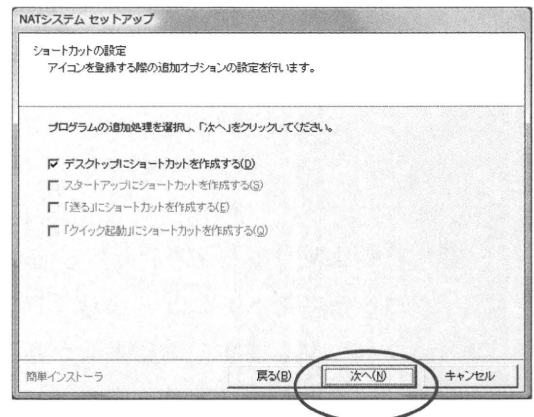
- ⑦ 「インストール先の設定」が表示されますので、そのまま「次へ」をクリックします。



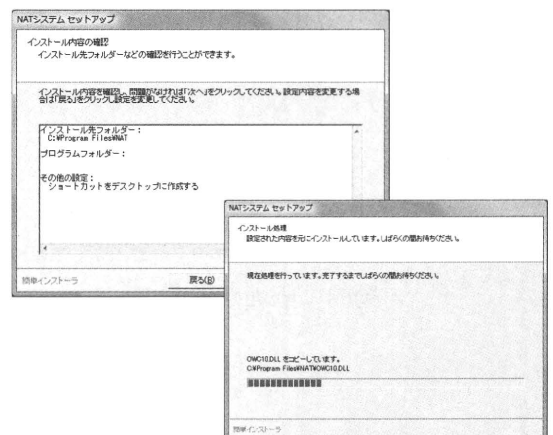
- ⑧ 「プログラムフォルダーの選択」画面が表示されますので、そのまま「次へ」をクリックします。



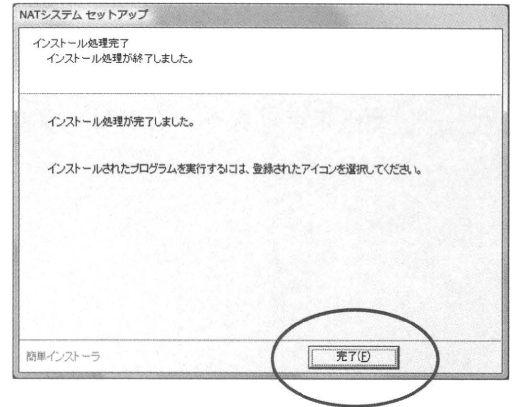
- ⑨ 「ショートカットの設定」画面が表示されますので、そのまま「次へ」をクリックします。



- ⑩ 「インストール内容の確認」画面が表示されますので、ご確認後、「次へ」をクリックするとインストールが開始されます。



- ⑪ インストール作業の完了画面が表示されますので「完了」をクリックしてインストールを完了します。



- ⑫ デスクトップに、システム起動用アイコンが作成されています。アイコンをダブルクリックすると NAT システムが起動します。



2) アンインストール方法

- ① コントロールパネルから「プログラムと機能」をダブルクリックします。



- ② 一覧より「NAT システム」を右クリックして、コンテキストメニューから「アンインストール」をクリックします。確認画面が表示されますので、「はい」をクリックします。



- ③ アンインストールの進捗状況が表示されます。自動的に画面が消えて、アンインストールが完了します。

